



とつか

2023年2月会報 第340号

国際会長(IP) Ulrik Lauridsen (Denmark)

2022 主 題 “Let Your Light Shine” 「輝かそう、あなたの光を」

～ スローガン ‘Good Communication is the Cornerstone in Every Cooperation’

23 「良いコミュニケーションは、全ての協力関係の基礎である」

アジア太平洋地域会長(AP) Chen Ming Chen (Taiwan)

“Elegantly Change with New Era” 「新しい時代とともに、エレガントに変化を」

東日本区理事(RD) 佐藤重良 (甲府21) 主題 “Let's act now for the future” 「未来に向けて今すぐ行動しよう」

スローガン 「誰かのために奉仕して 自分のための楽しいクラブライフを！」

湘南・沖縄部部長(DG) 小松伸史 (厚木) 「楽しく・元氣よく・前向きに」・ 副題 「入りたくなるワイズにしよう」

クラブ会長 吉原 訓 会長主題「原点回帰」 副会長:若木一美 書記:加藤利榮 会計:岡 進 ネット:吉原和子

会長ひとこと

会長 吉原 訓



コロナ、コロナで3年目。私が会長を引き受けて早くも半期、アツという間に月日が過ぎていきます。

国は、この春にもコロナをインフルエンザと同じ取扱いとする適切な方針を打ち出しました。

中国では、ついこの間までゼロコロナ政策を固く進めてきましたが、ここで経済中心的政策に急旋回しました。直後にコロナ感染急拡大となっています。果たして本当でしょうか。ゼロコロナ政策中もかなり感染者がいたのかもしれませんが。中国では正しい報道がなされていないのかもしれませんが。いずれにしても世界は、ウイズ・コロナ政策の時期に来ております。

今年はYMCAの諸事業が再起動する年となるよう期待したい。私たちのクラブも活性化が求められています。

- 一、希望する活動の資金は十分か。
- 一、拠点となるYMCAの何を手助けするべきか。
- 一、ユースリーダーとの協働を進める。
- 一、運営委員会との協力点を探す。

以上、少々欲張り過ぎですが、残る半年で何か一つでも実行し活性化のキッカケをつかみたいと思います。

各位のご理解・ご協力を切にお願いいたします。

◎今月の聖句◎

互いに忍び合い、責めるべきことがあっても、赦し合いなさい。主があなた方を赦してくださったように、あなたも同じようにしなさい。

—コロサイの信徒への手紙3章13節—

赦しのないところに良い人間関係は生まれません。人は付き合いえば付き合い合うほど憤りとか苦しい思いが生まれます。神はお互いに忍耐を持って赦し合いなさいと教えられます。お互いに、忍耐を持ったコミュニケーションが必要なのです。

強調月間

TOF・FF・HTW

TOFはTime of Fast ‘断食の時’、例会時の食事代を抜き、相当分を国際に献金する。@1,300円以上が目標。FFはFamily Fast、家庭内や知人らに呼び掛けて行う、Heal the World ‘世界を癒そう’ ということ。金額は表示されないが、今から10年ほど前にワイズ運動の一環として国際で定めた。

～ 1月の会合 ～

会員数：11名 ・ 特記事項：なし
出席率：92%

★強い義務感を持つとう 義務はすべての権利に伴う★



日時：2023年1月17日(火)18:00～20:00
 場所：湘南とつかYMCA・2階(205号室)
 出席者：浦出・岡・加藤・鈴木・瀬戸・土方・吉原・若木 ～計8名・敬称略～

1月17日、新年初例会が湘南とつかYMCAで開催された。開会セレモニーの後、「クラブ忘年会」「Y-YS協議会」報告がなされ、問題なく終了した。

引き続いて、協議に移り、次年度のクラブ役員は、会長・直前会長に一任することで承認された。協議の中でワイズ活動の原点であるYMCAとの協働について、会員やリーダー会、職員、地域の皆様などと連携することを検討する中から、現実にあった活動を模索しては…との意見も出された。

次に、区への献金送付が来月に迫っていることから、今年度は‘CS’に拠出することが承認された。

YMCA関係では、瀬戸担当主事から、今年度チャリティーランはすべて予定通り終了し、ほぼ予定した範囲内での収支であったこと、一方、本年もオンラインを併用しての開催が予定されていること、さらに2月11日に開催予定の会員大会

で「機動戦士ガンダム」の原作・総監督の安彦良和氏が講演すること、また、例年実施の「ピンクシャツデー」が2月22日に行われること、3月には「チャリティゴルフ大会」が開催されること、コロナが止まらないことから‘河津桜散策’は中止とする、等の報告があった。

閉会后、いつものファミレスで、ささやかな懇親会を開催、和やかなひと時を過ごしました。

解散後、急な雨の中、それぞれ家路につきました。



☆ YMCA運営委員会から ☆

湘南とつかYMCA運営委員長 若木 一美

1月23日(月)、第5回湘南とつかYMCA運営委員会が開催されました。今回は、とつかYMCAで活動するリーダーを中心に、5名のリーダーが参加し、熊本県で開催された第53回全国YMCAリーダー研修会からの報告と、これからの活動計画について報告がありました。全国で活動するリーダーとの意見交換や情報交換をするなかで、多くの発見と学びがありました。特に、講師の東京立大学社会学者の宮台真司先生から、今後の活動を考えるうえで大きな示唆を頂いた旨の報告もありました。また、今後については、運営委員やワイズメンバーや、地域で活動する多くの人々と連携しながら活動をしたいと、たいへん心強い意見が述べられました。

続いて、湘南とつかYMCA創設30周年を迎えるにあたり、30周年事業について、今までの意見集約が薩摩館長から発表され、これに関し、リーダーの皆さんからも意見を頂いた、23年度は準備期間、翌24年度一年をかけて周年記念として何らかの記念事業を実施することを確認しました。

リーダーとの意見交換はここまでで、以下、配布資料に基づき、担当職員による12月及び1月分の各事業の報告に入りました。また、3月の主要事業では、2月11日に開催される会員大会(次ページ「古賀随想」に詳述)とピンクシャツデーに因んだ行事の紹介及びそれらへの参加の方法などの案内がありました。

この冬は、10年に一度の寒さといわれており、委員会は定刻に終了し、それぞれの家路につきました。

補) リーダーとの協働については、クラブとして、早急に検討すべき課題で、本誌冒頭「会長ひとこと」でも吉原会長が、さらに、末尾「Yだより」において瀬戸担当主事も、同様の趣旨を述べております。

早急にクラブ役員会の議題にしましょう…。



特別寄稿

☆ ワイズの活動は仕え合うこと ☆



東日本区書記 清藤 城宏 (甲府21クラブ)
私は毎年、年の初めに今年の支えとなる
み言葉を聖書から頂いている。今年の聖書
の箇所は、ロマ書8章28節、「神を愛する
人々、すなわち、神のご計画に従って召され
た人々のためには、神がすべてのことを働か
せて益としてくださることを、私たちは知っています。」です。

力足らずでYSの足を引っ張っている区書記の私ですが、それ
でも万事を益としてくださると楽観的に構えているところがあり
ます。YSからキリスト教の教えに基づくことを外すわけには
いきません。それは「愛」ということ。それは抽象的なことで
なく、具体的に体现されるべきもの、愛し合う=仕え合うこと
だと思ふからです。それゆえ、私たちはお互いに仕え合うこと
によって「真の仕合せ」へと招かれると思っております。私は
この一点からYSに席をおいております。そうした安心感のもとで
YSでは本当に幅広い魅力的な出会いを経験します。何かを
やろうという時にはそれぞれの違いが実に生きてくると期待し
ております。単に「共同」とか「協同」という言葉よりも、より
結束力の強さ、それぞれのできることで得意分野を受け持つ
自由度が高いという意味で「協働」だ、と感じています。

しかし、YSの書記の役職を通して課題も感じております。
第一に個々の多くの魅力的なYSメンは多いが、迅速な意思決定
は至難の業だという点です。これは私も責任を感じております
が、コロナの影響で対面で行えないことも大きな妨げになっ
ている点です。第二に会員増強が進まないこと。その理由にYS
の知名度が低いことです。このことのために、理事を始め会員
増強委員会でも力を入れています。地域でYMCAと一緒に
知名度の向上を一層図る活動の必要性を強く感じています。
そして第三には理事通信10月号の理事メッセージ巻末資料で
も分析していましたが、やはりYS高齢化問題です。我々
高齢者が活躍する場が与えられているのは嬉しいのですが、
若い世代を取り込んで、一人ひとりの多様性を大切にしながら、
幅広い活動をしてこそ、真の仕合せなYSとなると考えて
おります。

(清藤城宏書記様、ご多用の中ご投稿賜り、誠に有り難うございました。B/E)

早春随想

☆今こそ平和を求めて! ☆



横浜クラブ会長 古賀 健一郎
昨年開かれた『全国YMCA共同の祈り
—ミャンマーとウクライナを覚えて—』にお
いて、吉岡恵生牧師(高槻日吉台教会)の
礼拝メッセージの中で……。

『ミャンマーにおける国軍による、ロシア
のウクライナ侵攻による非人道的な行為に怒りを覚えている
状況下、真実の平和を求めていきたい。「苦難の中にいる人
たちを励ますこと、弱くされた者たちを助けること、忍耐し
ながら徹底的に善を行っていく。」と、自分に言い聞かせる
ことが大事だ。“武器を持たなければ…”でなくて、“武器で
脅かしているその人たちが悔い改めること、彼らが武器を置
くこと。”、そのことをどれだけ願い祈ったのか? その祈り
はまだ深られていない。今、恐れがこの世界を支配している。
だからこそ恐れに翻弄されてしまうのでなくて、祈りの中か
ら、冷静に本当の平和を創り上げていくためには、私たちは
何を求め、何を祈ればよいのか、そのことを共に考えていき
たい。』と語られた。

こうした世界の平和が脅かされている時代にあつて、2月11
日開催の横浜YMCAピースフォーラムにおける、安彦良和氏の
講演を大変関心をもって注目している。彼の映画『機動戦士
ガンダム THE ORIGIN』のテーマは、『人間はなぜ戦争をして
しまうのか?』である。暴力と戦争が繰り返されてもなお、
人と人が分かり合おうとするのはなぜか? 『分かり合えたら
どんなにいいだろう。そうすれば、他人の痛みを知り、分か
り合えない他者とも向き合うことができ、より多くの人が幸
せになれる。』との考えが、彼の根底にある。

私は原爆被災地の長崎で生まれ育ち、通った高校は爆心地の
近くにあった。原爆投下時のあの日、焼けただれた被爆者が、
「水を!」とうめき叫びながら浦上川に集まり亡くなってい
った、その浦上川をいつも見つめながら、私は高校生活を過ご
した。

国際社会の荒波にもまれる危機的な状況の中、今こそ『自
分には何が出来るか。』を考え、微力であっても行動に移して
いきたい。(了)

《レザン通信》

☆2023年の活動が始まりました…☆

横浜YMCAワークサポートセンター レザン 相良 良文



1月6日(金)、2023年の活動が始まりました。
年末に行うことができなかった「大掃除」とお正
月のプログラムを行いました。毎年恒例にもなっ
ている「書初め」も行いました。思いおまいのコ
トバが新年の目標に選ばれ、見るからに「力強い」
作品となりました。

レザンで作った「お餅」もいろいろな味(あんこ・きなこ・
おろし・いそべ)を味わうことができました。

終わりには、「福笑い」「かるた」などの「お正月遊び」で、

大いに「初笑い」を楽しみました。

本年も、また よろしくお祈りします。





瀬戸俊孝

先日、1月23日(月)湘南とつかYMCAの運営委員会において、ユースリーダーの活動報告がありました。年間を通して、YMCAの学童、スポーツなどのプログラム指導、キャンプ引率などに関わるとつか所属のリーダーが「リーダー会」というチームを作り、1年間の活動を振り返り、今後の目標を発表してくれました。

今回の報告は、年間の経過と合わせてシンボリックな活動の「地産地消・農園活動プログラム」「全国リーダー研修会」の二つを中心に報告してくれました。様々な活動を通して、リーダーたちがYMCA活動でできる事は何か？ 地域のため社会のために何が出来るか？ を考える機会になったようです。

そして、リーダーもワイズメンも基本的な思いは一緒です。YMCAを通して出会ったが、地域や社会に貢献することができるようになることを目指していると思います。今後は、リーダーとワイズメンが世代を超えて共に活動できるように計画したいと思います。

「協働」とは、共通の目的を達成するため、お互いの特性を認識・尊重し合い、対等な立場で共通する領域の課題解決に向けて協力・強調する関係とか。

リーダーとワイズメンが協働して、多くの方を巻き込み活動の輪が、広がることを願います。



【今月の歳時記】 “ 春浅し はるあさし・春めく はるめく ”

春浅し：二月に入り、立春は過ぎてはまだ寒い頃で、降雪もあるし、風もまだ強い。とはいっても春の足音はどこからともなく聞こえてくるようだ。

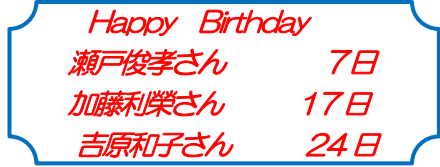
樹木の膚をみても、かすかに春の息吹きが感じられる。

春浅き水を渡るや鷺一つ	碧梧桐
病牀の匂袋や浅き春	子規
仮住のなれぬ水仕や春浅き	立子
春浅し空また月をそだてそめ	万太郎

春めく：二月、三月のまだ寒い中にも、寒さがゆるみ春色が目に見えて濃くなるのが感じられるときがある。南国ではすでに太陽がキラキラと輝き、子どもたちは戸外に出て、嬉々として遊ぶ。私たちの気持ちもいきいきとしてくる。

春めける山河消え去る夕かげり	虚子
春めきてものの果てなる空の色	蛇笏
春めきしそぞろ心や衣を裁つ	くに女
春めきて況庵うまき膳に坐す	長路

◎ 例会：2月21日(火)18時・湘南とつかYMCA
近くなりましたら、皆様に担当主事から連絡させていただきます。



☆ トピックス

加藤利榮

森本榮三さん

元大阪高槻クラブの会長で、第10代西日本区理事の森本さんが病で亡くなられたことが、メールに入りました。日ごろ、カメラを持ち歩くことで知られ、新聞にも掲載されたことがありました。思えば、高槻クラブ10周年の折には、夜遅くまで好子メネット様共々熱っぽくワイズを語り合ったことが思い出されます…。祈 平安

(その一) ‘2月17日生まれ’の仲間が…

ハナシは何年か前にさかのぼる…。ある時、伊藤幾夫さん(現・東京多摩みなみ)から、「加藤さんは、ワタシよりもちょうど20歳先輩です。」と告げられ、咄嗟のことで目をぱちくり…。なお練けて、「もうお一人、横浜の山添訓さんとは20歳違いの私の後輩です…。」

それからというもの…、3人と会うたびに、自然に笑みが…。ほかにもまだおられる…?

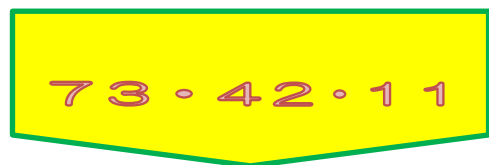
(その二) 春立つ庭や…

落葉焚いて春立つ庭や知恩院 虚子

この句は作者が同寺を訪れた折に詠んだものでしょうが、かつて今どきに、御殿場・東山荘を訪れた際、まさにぴったりのひと時を過ごした思い出があります。ソヨとも風もなく、正に「…春立つ庭や東山荘」の想いでした。

そして、ごく最近、晩秋の東山荘を訪れる機会に恵まれました。今回は早春でしたが、今回は、正に‘小春日より’1階の食堂の窓に映える紅葉をはじめ様々な木々、正に、落葉焚いて小春日よりや東山荘 皆様も、この時期、東山荘を訪れてみられては…。

(その三) 年賀はがき3等当選番号



～CS資金に～

〈後記〉

‘コロナ去り ハル到来…’といきたいですネ…。

(3/8)